令和７年度事業報告書

社会福祉法人よるべ会

令和７年度　理事長　職務執行状況報告書

２０２５（令和７）年度は、国際社会でのウクライナや中東での戦争・紛争の激化を初めとした混乱と不安が広がり、資源物資不足や物価高騰等深刻な状況が続いている。私達の足元では経済優先、手元収入重視が強調され「社会保障国民会議」の元で給付付き税額控除の制度設計を含めての「社会保障と税の一体改革」の議論が拙速に行われている。

「福祉サービス」の考え方・あり方に大きな影響が予見され、注視していかねばならない。

よるべ会では、任期満了に伴う理事・監事・評議員・評議員選任解任委員改選を行い、新たに専務（業務執行）理事の専任を行った。また、以下事業計画に添い法人活動の強化と今後に向けた土壌づくりに取り組んできた。

1　主な活動報告　◦責任者会　◦運営会議　◦サービス向上委員会
◦権利擁護・人材育成・サービス向上・ICT 各部会
◦労務管理委員会による活動を中心に。

① ＜権利擁護＞

◦「地域連携推進会議」をよるべ沼代及びグループホーム二宮地区、小田原地区それぞれに設置し、会議・見学会を実施。委員（利用者、保護者の代表、地域関係者、知見ある関係者）によるサービス内容等の検証の機会となった。

◦職員へのハラスメント対策対応マニュアルの作成やメンタルヘルスを図るストレスチェックの実施と検証の実施。

② ＜業務の検証と改善＞

◦「わらべの杜」の定員確保について、県障害サービス課及び児童相談所との協議を重ね、要因の解消もあり改善が図られた。

しかし、グループホーム利用者の高齢化による疾病そして入院・退所が続き欠員が重なり運営に支障が生じた。

◦「ぽけっと」及び「よるべ相談室」の梅香園敷地への新築移転計画について、小田原市の了解と県の承認を経て、助成団体に助成申請を行ったが、対象外との回答となった。次に、年明けて県社会福祉協議会の事業振興資金借入申請を行い、貸付決定を受け８年度建設計画につないだ。

◦グループホーム「ポプラの家」スプリンクラー設置工事は国・県補助金決定を受け実施となったが、機材納入が遅れ８年度４月工事完了となった。

◦「よるべ沼代」自家発電設備設置計画は資材納入困難の状況もあり、８年度計画に延期となった。

③ ＜人材確保・育成への取り組み＞

◦新任職員研修の実施

◦非常勤職員人事考課表作成
◦職員、法人内研修の実施
◦職員ハンドブック改訂
◦法人内施設見学会の毎月実施、及び就職説明会参加
◦ガバナンス強化と生産性向上を目指してのリーダー養成を目的とする課長職を中心とした「業務改善プロジェクト」を年度を通して実施

④ ＜地域社会との連携＞
◦市社会福祉協議会への参加
◦下中地区社会福祉協議会への参加
◦下中まちづくり委員会への参加
◦事業計画に添っての各事業所の行事の実施
◦「地域連携推進会議」の設置運営
◦企業交流会の主催（ぽけっと）
◦橘商工会への参加

⑤ ＜職員労務管理の改善＞
◦給与規程の改定（ベースアップ、「処遇改善手当」等の一本化）
◦一時金支給（人材確保、職員環境改善補助金の活用による）
◦「育児・介護休業等に関する規則」の改定
◦就業規則等の改定（休業及び復職、定年の規定、通勤手当改定）
◦通勤車両管理規程、表彰規程の見直し、個人情報保護規程の策定
◦非常勤職員人事考課の見直し実施

2　事業運営（令和８年３月３１日現在）

事業所名	よるべ沼代（障害者支援施設）		コスタ・二宮（障害福祉サービス事業所）		梅香園（障害福祉サービス事業所）		わらべの杜（福祉型障害児入所施設）	
実施事業	施設入所支援	定員40名	就労継続支援B型	定員20名	就労継続支援B型	定員18名	施設入所支援	定員40名
	生活介護	定員40名	生活介護	定員20名	生活介護	定員22名	短期入所	定員4名
	短期入所	定員4名					相談支援事業	
	相談支援事業							

事業所名	障害者支援センターぽけっと（就業・生活支援センター）		かめりあ・ポラリスホーム共同生活支援事業（計8棟）		あずさの家共同生活支援事業（計3棟）		どーむ（児童発達支援事業所）	
実施事業	就業・生活支援センター	登録者約540名	かめりあホーム	定員　33名	あずさの家	定員　７名	児童発達支援事業	定員10名
	地域就労援助センター		ポラリスホーム	定員　13名	ポプラの家	定員　７名		
					わたくも	定員　７名		

3　理事会・評議員会開催状況

＊監事監査　　令和７年６月２日（清水監事・小林監事）
＊評議員選任解任委員会　令和７年６月２０日（秋山・清水・中島委員）

＊理事会

開催日	議案	出席者
6月12日	第１号議案　令和６年度事業報告(案)	理事７名
	第２号議案　令和６年度計算書類及び財産目録（案）	監事２名
	第３号議案　任期満了に伴う役員の改選	
	第４号議案　任期満了に伴う評議員の改選	
	第５号議案　任期満了に伴う評議員選任解任委員の改選	
	第６号議案　業務執行理事(常務理事）選定に伴う定款変更	
	第７号議案　評議員選任解任委員会の開催について	
	第８号議案　令和7年度第1回評議員会開催について	
	第９号議案　よるべ会諸規程改定（案）について	
6月27日	第１号議案　理事長の選定	理事７名
	第２号議案　顧問の選任	監事２名
	第３号議案　評議員選任解任委員の選任	
	第４号議案　業務執行理事（常務理事）の選定	
10月16日	第１号議案　令和7年度資金収支第1次補正予算(案)	理事６名
	第2号議案　ポプラの家スプリンクラー設備入札について	監事２名
	第3号議案　ぽけっと新築移転工事･県社協借入金申込について	
	第4号議案　令和7年度第2回評議員会開催について	
3月11日	第１号議案　積立資産の取り崩しについて	理事６名
	第２号議案　令和7年度資金収支第2次補正予算(案)	監事２名
	第3号議案　令和8年度事業計画(案)	
	第4号議案　令和8年度当初予算(案)	
	第5号議案　諸規程の改定(案)	
	第6号議案　梅香園給食業者選定について	
	第7号議案　令和7年度第3回評議員開催について	
	第8号議案　役員等賠償責任保険契約について	

＊評議員会

開催日	議案	出席者
6月27日	第１号議案　令和６年度計算書類及び財産目録（案）	評議員８名
	第２号議案　新役員（理事・監事）の選任について	監事　２名
	第３号議案　業務執行理事（常務理事）選定に伴う定款変更	
10月24日	第１号議案　令和７年度資金収支第１次補正予算（案）	評議員５名
		監事　２名
3月19日	第１号議案　令和７年度資金収支第２次補正予算（案）	評議員８名
	第２号議案　令和８年度事業計画（案）	監事　２名
	第３号議案　令和８年度当初予算（案）	

4　契約・入札処理及び固定資産について

＊ポプラの家「スプリンクラー設備工事」　入札日　令和７年１１月１７日
入札立会　清水監事、水谷評議員、高橋理事、秋澤理事
㈱大柳防災　５，４００，０００円（税別）

5　法人全体職員状況

【法人職員状況】　（令和８年３月３１日現在）

職種	よるべ沼代		コスタ・二宮		梅香園		わらべの杜		ぽけっと		かめりあ・ポラリス		あずさの家		どーむ	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1		1		1		1		1		1（兼）		1（兼）	
サビ児管	1（兼）		1（兼）		1		1（兼）				1		1（兼）		1	
医師																
看護師	1		1（兼）		1（兼）											
栄養士																
生活支援員	12	5	3	7							4		4			
支援員		3	4	4	10	8			4	6					1	2
保育士							4	4								1
児童指導員							8	13								
相談支援専門	3						1（兼）									
世話人												24		19		
運転手介助員						4	1	1								
事務員	3	1			1											
その他																
小計	20	9	8	11	13	12	14	18	5	6	6	24	4	19	2	3
	29		19		25		32		11		30		23		5	
合計	72	102	174													

6　主な会議等

会議名	開催数	開催日
全体職員会議・研修	6回	5/27 7/5 9/21 11/9 2/15 3/15
執行責任者会	26回	4/8.22　5/13.27　6/10.24　7/8.29　8/12.26　9/9.30
		10/7.24.28　11/11.25　12/2.9.23　1/13.27　2/2.24　3/3.24
運営会議	12回	4/8　5/13　6/10　7/8　8/12　9/9　10/7　11/11　12/9　1/13　2/3　3/3
サービス向上会議	12回	4/22　5/27　6/29　7/29　8/26　9/30　10/28　11/25　12/23　1/27　2/24　3/25
労務管理委員会	11回	4/25　5/22　6/27　7/28　9/29　11/28　12/3　1/26　2/10　3/30

7　労働安全衛生

＊職員健康診断を実施（７月１１・１７日）

8　広報活動

＊かわら版　　２回／年　　夏号８月発行　冬号１月発行
＊ぽけっと通信　　３回／年
＊ホームページ　　順次更新

9　法人行事・研修等

	行事・家族会他	理事会・研修会他
4	01(火) 辞令交付	08(火) 責任者会・運営会議
	13(日) 沼代地区祭り	22(火) 責任者会・サービス向上会議
	15(火) みのり会総会	
	19(土) よるべ会保護者会総会	
	30(水) 健康診断（梅香園）	
5	05(月) ゴールデンウイークレク（よるべ沼代）	13(火) 責任者会・運営会議
	17(土) 茶話会（どーむ）	27(火) 責任者会・サービス向上会議
	24(土) コスタ二宮日帰り旅行	
	30(金) 春レク（梅香園）	
6	13(金) 梅香園日帰り旅行①	02(月) よるべ会監事監査
		10(火) 責任者会・運営会議
		12(木) よるべ会理事会
		24(火) 責任者会・サービス向上会議
		27(金) よるべ会評議員会・理事会
7	11(金) 健康診断（コスタ・わらべ）	05(土) 全体職員会議
	17(木) 健康診断（よるべ沼代）	08(火) 責任者会・運営会議
		29(火) 責任者会・サービス向上会議
8	14(木)～16(土) 夏休み	12(火) 責任者会・運営会議
	15(金) 夏休みレク（よるべ沼代）	26(火) 責任者会・サービス向上会議
	19(火)～20(水) わらべの杜一泊旅行	30(土) 法人全体職員研修会
	23(土) 夏レク（ 梅香園）	
9	15(月) 敬老会（よるべ沼代）	09(火) 責任者会・運営会議
	20(土) よるべ会保護者会	30(火) 責任者会・サービス向上会議
	26(金) 梅香園日帰り旅行②	
	27(土) よるべ祭り	
10	10(金) よるべ沼代日帰り旅行①	07(火) 責任者会・運営会議
	18(土) コスタ二宮秋祭り	16(木) よるべ会理事会
	25(土) 茶話会（どーむ）	24(金) よるべ会評議員
	26(日) 健民祭（よるべ沼代・わらべの杜）	28(火) 責任者会・サービス向上会議
	31(金) 梅香園日帰り旅行③	
11	07(金) 予防接種（コスタ二宮）	01(土) 全体職員会議
	08(土) 梅香園秋のイベント	11(火) 責任者会・運営会議
	08(土) 予防接種（わらべの杜）	25(火) 責任者会・サービス向上会議
	14(金) 予防接種（よるべ沼代）	
	21(金) よるべ沼代日帰り旅行②	
	22(土) 予防接種（わらべの杜）	
12	06(土) 県西地区障害者文化事業	09(火) 責任者会・運営会議
	13(土) よるべ会保護者会・よるべ沼代清掃	23(火) 責任者会・サービス向上会議
	13(土) わらべの杜クリスマス会	
	19(金) よるべ沼代クリスマス会	
	20(土) コスタ二宮クリスマス会	
	20(土) 梅香園クリスマス会	
	26(金) よるべ沼代餅つき	
	29(月)～1/3(土) 冬休み	
1	05(月) 仕事始め	13(火) 責任者会・運営会議
	08(木) どんど焼き（わらべの杜）	27(火) 責任者会・サービス向上会議
	10(土) よるべ会新年会	
	16(金) どんど焼き（よるべ沼代）	
2	14(土) 内科検診（よるべ沼代）	03(火) 責任者会・運営会議
	14(土) よるべ会保護者会役員会	14(土) 全体職員会議
	21(土) わらべの杜卒業旅行	24(火) 責任者会・サービス向上会議
	22(日) 消防団合同訓練（わらべの杜）	
	22(日) 消防団合同訓練（よるべ沼代）	
	28(土) 茶話会（どーむ）	
3	20(金) 送る会（どーむ）	10(火) 責任者会・運営会議
	23(月) 送る会（わらべの杜）	11(水) よるべ会理事会
		14(土) 全体職員会議
		19(木) よるべ会評議員会
		24(火) 責任者会・サービス向上会議

令和 7 年度 業務執行理事 職務執行報告書

1. 重点課題

令和 7 年度は、次年度以降の経営安定化に向けた基盤構築を最優先事項とし、以下の 2 点を重点項目として設定した。

- **障害福祉サービスにおける義務化項目への対応体制構築** 「企画調整会議」を新設し、虐待防止や BCP（業務継続計画）等の未整備事項を抽出し、法人全体での実効性を高める体制を整備した。
- **法人運営・各部署の現状把握と経営的視点の浸透** 全 5 部署の所属長ヒアリングを通じて、現場の運営状況や課題を直接把握。各種会議の目的整理や関係機関との連携強化を図り、組織力の底上げを推進した。

2. 活動内容

（1）企画調整会議の設置と運営（ガバナンスの強化）

法人運営の課題整理および企画調整機能の強化を目的に、理事 3 名と企画調整課長で構成する「企画調整会議」を設置した。

- **義務化事項の徹底：** 虐待防止、身体拘束適正化、感染症予防、BCP について、現行の運用を精査・見直しを実施。
- **規定の改定：** 時代や法改正に即した指針の改定を行い、責任者会議での承認を経て、次年度からの全面運用に向けた周知準備を完了した。
- **会議運営の効率化：** 責任者会議に「議案」と「議題」の区分を導入し、意思決定の迅速化と議論の深化を図った。

【開催状況】 令和 7 年 8 月～令和 8 年 3 月（計 6 回開催）

（2）所属長ヒアリングの実施（組織マネジメント）

全 5 部署の所属長に対し、令和 7 年 9 月より順次ヒアリングを実施した。

- **主な聴取項目：** 各部署の運営状況、人事体制（常勤・非常勤の配置バランス）、現場の課題、将来の事業計画。
- **成果：** ヒアリング結果を理事長と共有し、法人全体が抱える潜在的リスクやリソースの偏りを可視化。今後の経営判断に資する情報を整理した。

(3) 運営会議の質的改善

月１回開催の運営会議を、単なる「報告の場」から「対話と解決の場」へと転換するための改善提案を行った。

- **重点テーマの設定：** 「より良い支援の実現」「働きやすい環境づくり」を軸とした。
- **活性化策：** 職員間での双方向的な意見交換を促進し、ボトムアップでの課題解決ができる体制へのシフトを検討中である。

(4) 関係機関との連携強化（外部ネットワーク）

理事長と共に、小田原市および神奈川県の行政・福祉機関への表敬訪問を実施した。

- **訪問先：** 小田原市（障がい福祉課、社協、保健福祉事務所）、神奈川県（県社協、障害福祉課）
- **成果：** 関係機関との連携強化および情報共有を図った。

3. 次年度に向けた方向性

次年度は、構築した基盤を「実運用」へと繋げる段階に移行する。

1. **経営的視点の深化：** 所属長ヒアリングを継続し、収益構造の分析やコスト管理など、より経営数値に基づいた事業運営を指導する。

2. **組織機能の検証：** 新設した企画調整会議や改善した運営会議の成果を検証し、組織運営のさらなる高度化を目指す。

3. **事業安定化の実現：** 法人全体のガバナンスと現場の支援の質を両立させ、持続可能な経営基盤を確固たるものとする。

【よるべ沼代】　令和７年度　事業報告書

〔１〕 運営目標

法人の基本方針に基づき、質の高いサービス提供に向けて、「施設入所支援」「生活介護」「短期入所」「日中一時」事業をさらに充実させ、入所利用者の高齢化・重度化への対応等の必要な支援を進めます。他の事業所と連携を深め、施設生活の質の向上に向けた環境づくりを積極的・計画的に実施します。

- 生活介護事業の活動の充実を図るため、作業種や活動内容の検討を進めます。
- 身体機能の低下を防止するため、理学療法訓練の充実を図ります。
- 感染症予防や、まん延の防止のため、感染症対策を検討する委員会を定期的に開催し職員への周知を図ります。
- 感染症や非常災害発生時の業務継続計画（BCP）の検証、改善をします。必要なサービスを継続的に提供できる体制づくりを進めます。
- 作業班の再編を実施し、安定した職員体制のもと活動の幅を広げ、利用者の望むサービス提供になることを目指します。

〔２〕取り組みと状況報告

利用者の高齢化・重度化もあり、体調不良での救急搬送等が多く見られ、機能訓練含めて体調の維持・管理には体を動かす機会も必要であることを実感した一年だった。1 名が医療的ケアが必要となり医療ケア付きＧＨへ移行、筋ジストロフィーで今後の進行が心配されていた方は療護施設へ、といったご本人にあった暮らす場所への移行を進めることができた。感染症では感染性胃腸炎が流行し、BCP 発動もむなしく感染者多数となったことを受け、BCP の見直しと検証を行い、今後の感染症対策に役立てることができるようすすめてきた。作業班の編成では、3 班体制から 2 班体制へと変更し、人員不足に対応できるよう体制整備をはかり、今後も継続的な検討と改善が必要だと考えている。また、利用者の意向確認を実施してきている中で、地域移行を強く希望されている方については、現在進行中ですすめている。

■支援事例　Ｓさん　２６歳女性　区分６

身体拘束をしている方で、ご本人の成長のステップに合わせ、作業時間の延長、食事場所の見直し、居室の備品の整備、同行職員のルールや外出等、一歩ずつ緩和に向けた支援をしてきた。職員の積極的な協力もあり、現在もさらに緩和できるようすすめていく。

〔３〕次年度に向けて

今後もご本人の望む暮らしの実現に向けてすすめていく。一方で、安定した運営に向け入所ニーズのある方の積極的な受け入れを行っていき、短期入所も活用しながら地域とのつながりを大切に、一つの拠点として社会貢献できるよう取組む。

〔４〕利用者状況

【利用者状況】

■年齢区分（令和8年3月31日現在）

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男	0	3	3	3	5	7	2	53.0	23
女	0	2	1	1	6	2	3	52.4	15

最小年齢　：　24　才　　・　　最高齢　74　才

■障害支援区分（令和8年3月31日現在）

区分	1	2	3	4	5	6	平均区分
男	0	0	0	3	9	11	5.1
女	0	0	0	3	7	5	5.3

■在所年数（令和8年3月31日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男	0	1	0	1	3	5	0	13	23
女	0	1	1	3	2	1	0	7	15

■開所日数および利用者数・利用日数（令和8年3月31日現在）

【生活介護（生産型）】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		22	22	22	24	21	24	25	20	23	21	21	22	267
実人数	男	18	18	19	19	19	19	19	19	19	19	18	19	225
延べ利用日数	男	372	498	415	440	388	446	465	360	417	376	357	385	4919
実人数	女	16	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	15	197
延べ利用日数	女	334	336	350	367	308	384	401	302	334	308	310	299	4033

■開所日数および利用者数・利用日数（令和8年3月31日現在）

【施設入所支援】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		22	22	22	24	21	24	25	20	23	21	21	22	267
実人数	男	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	286
延べ利用日数	男	476	515	528	567	498	576	600	463	538	488	504	500	6253
実人数	女	16	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	15	197
延べ利用日数	女	348	343	351	382	329	408	424	320	356	324	330	327	4242

■工賃実績（前年対比）

	令和6年度 実績	令和7年度 実績	備　　考
生活介護 （生産型）	¥3,215 （楽働班9名）	¥2,455 （楽働班15名）	

〔５〕短期入所事業・日中一時事業

■短期入所（定員4名）　　令和8年3月31日現在

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	5	6	4	5	5	7	6	5	4	4	3	5	59
延人数	11	13	11	11	10	12	12	12	5	6	7	9	119
延日数	66	70	57	60	66	55	43	37	19	31	51	61	616

■日中一時　　令和8年3月31日現在

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
延人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
延日数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

〔６〕令和７年度まとめ

具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護の確立】 ・利用者の意向確認を実施し、ご本人の望むこれからの暮らしを考えていく。 ・虐待防止・身体拘束適正化委員会への取り組みと、拘束0に向けて取り組む	・全ての利用者の意向を確認し前進する ・拘束のない施設となる	・新書式を作成し、利用者の地域移行、日中活動についての意向確認をすすめ、地域移行の意向があった方1名に対し、現在関係機関との連携のもとすすめている。 ・3名のうち1名は解除ができ、2名は緩和をすすめている。	△
【業務の検証と改善】 作業班・活動班の再編成の検証と、サービス提供と活動の安定化を図る	全ての利用者にとって、活動しやすい環境整備と活動の幅を広げることができた	2班体制へ再編し、活動の安定化を図り、職員の欠席等による急な日課変更はなくなったが、活動の幅を広げるまではには至らなかった	△
【人材確保・育成】 ・実習生の受け入れを広げ、これからの福祉人材強化のための取り組みを行う。 ・権利擁護への意識向上	・実習だけでの学校とのコミュニケーションではなく、それ以外にもコミュニケーションを増やし採用実績につなげる ・全ての職員の権利擁護への意識が向上した	実習時以外での学校とのコミュニケーションは教員の多忙さもあり実現は難しかった。実習受け入れの強化はしてきている。 権利擁護の意識は、e-ラーニングを活用したミニ研修を繰り返すことにより、意識向上へとつながってきている。	△
【地域社会との連携】 ・「地域連携推進会議」を設定し、地域とのつながりや顔の見える関係作り、障害の理解を深められるよう取り組む ・まちづくり委員会への出席	・地域住民の方々の障害者福祉への理解がすすんだ ・委員会、分科会への参加と協力ができ、顔の見える関係構築ができた	地域連携推進会議は2回開催し、出席された委員から良いご意見をいただき、施設で暮らす利用者とのコミュニケーションもとることができた。 まちづくり委員会は可能な限り出席し、福祉・健康づくり分科会での活動にも協力することができた。	○

〔７〕防災・BCP

実施	実施内容	対象	状況
6/18	【夜間】避難・通報・消火 BCP（防災）訓練	全利用者	夜間での地震と火災が同時発生した災害を想定し訓練、自由時間でしたがスムーズな動きですぐに机の下に隠れるなどの行動ができていた。
8/20	BCP（感染症）まん延防止訓練	全職員	職員１名コロナ感染したことを受け、そのまま実際の訓練を兼ねて初動を中心に施設内、備品の確認等を実施。
1/20	BCP（感染症）まん延防止訓練	全職員	ウイルス性胃腸炎に感染したことを受け、そのまま実際の初動と嘔吐物の処理方法を中心に実施。
2/22	避難・通報・消火 BCP（防災）訓練 避難確保訓練	全利用者 全職員	地域の第 22 分団の方々のご協力による合同訓練。分団の車両も持ってきていただき、防災服の着用など利用者も興味を持って参加することができています。 また、避難確保訓練も同時に実施。

〔８〕リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	73	歩行時のつまずき、スロープでの転倒等
服薬	10	薬の持たせ忘れ、他
ケガ	8	てんかん発作、疾患による救急対応等
利用者トラブル	8	食事をのどに詰まらせてしまう、異食、盗食等
車両	1	タイヤのパンク
物品破損	6	停電、倒木等
その他	39	送迎忘れ、鍵の返却忘れ、猫が会議室へ侵入等

《重大事故》　※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
6月7日	転倒	トイレで一人で立ち上がりそのまま転倒し裂傷	緊急通院し5針縫合	職員を呼ぶように声かけを継続。見守り強化。
6月30日	入院	尿路感染で入院	発熱等があり緊急通院。	以前にも同様のことがあり、衛生面の強化を継続。
10月24日	骨折	右足第3・4・5指の亀裂骨折	整形外科を受診しテーピング	カメラ付き居室への移動を行い、見守り強化。
10月31日	ケガ	右手の掌を裂傷	緊急通院し4針縫合	切ってしまった歩行器の部位に保護カバーを装着
11月4日	入院	絞扼性イレウスのため入院	救急搬送、緊急手術を行い、3ヶ月入院	ストマの装着
11月13日	入院	てんかん発作による入院	救急搬送、入院による服薬調整	見守りと様子観察を継続。
1月12日	通院	意識消失し転倒。緊急通院。低ナトリウム血症の診断	救急搬送、精密検査と点滴	塩分量の見直しを実施し、食事の調整
1月20日	入院	誤嚥性肺炎、イレウスのため入院	救急搬送、入院治療、内容物の除去	食事形態の見直しと経過観察を継続。
2月8日	入院	誤嚥性肺炎のため入院	救急搬送、昇圧剤による血圧管理、酸素	血圧の日内変動の管理をしていくための検討、食事形態の見直し
3月5日	入院	てんかん発作による誤嚥性肺炎のため入院	救急搬送し入院	見守りカメラによる安全確認を継続。

〔９〕苦情解決　　件数　０件

《クリスマス会》　　《　防災訓練　》　　《お疲れさま会》

【相談支援室】　令和７年度　事業報告書

〇取り組みと状況報告

【全体】

１　「親切」「丁寧」「スピーディー」の事業運営を目指して、４つのサービス向上計画をたてている

①【権利擁護の確立】

意思決定に基づき、意思の表出過程を大切にしたサービス調整を行う

意思決定を念頭に、モニタリング等で上がってきた課題に対して関係する方たちと協議する場をタイムリーに設定し、検討をし、ご本人が望むことに対して調整をしてきた。100％の納得に届かなかったかもしれないが、相談支援の役割を活かして安心した生活づくりに繋げられた。

②【職員のスキルアップ】相談支援スキルの向上

人員配置の都合で今年度は契約件数を増やすことは出来なかった。 業務改善プロジェクトの一環でテーマ―を「整理」として、課内会議で検討をして今ある業務の見直し、主に事務の作業手順等を整理が出来た。

③【業務の検証と改善】働き易い環境づくり

指定特定相談支援事業所関連:12 回の研修会に参加 委託相談クローバー関連:21 回の会議、研修に参加

④【地域との連携】安心して暮らせる地域づくり

インフォーマルな社会資源の情報収集、精神障害のある方の地域生活のための訓練施設の見学など社会資源の情報収集が出来た。 年度の一番のキラリは地域移行を目指している施設入所者が移動支援を利用できるように小田原市と調整をして、支給が認められるようになったのは相談員の頑張りであった。

２　クローバー事業の継続

令和 5 年 10 月～委託を受けている「おだわら総合相談支援センター「クローバー」の事業を、継続して相談員１名を派遣して行っている。

３　人員体制

新年度４月より相談員３名、非常勤の事務員１名の４人体制でスタート。相談員が３名になったために基本報酬の単価は機能強化Ⅰ（2,014 単位）⇒Ⅱ（1,914 単位）に変更。

【指定特定相談事業所　よるべ沼代】

◆契約ケース数

○4 月年度開始時	219 ケース	
○支援の終了ケース	10 ケース	逝去、介護保険への移行、福祉サービスの利用終了、県外施設へ移行
○支援の開始ケース	0 ケース	
○3 月末現在の契約ケース	210 ケース	

知的	181			精神	19		身体	4		
A1	A2	B1	B2	1級	2級	3級	身1	身2	身3	身4
27	46	69	39	1	12	6	2	2	0	0

区分	212					
6	5	4	3	2	1	未
23	25	38	39	40	1	44

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計	
男性	1	19	28	28	26	23	4	1	130	210
女性	0	10	19	13	25	8	5	0	80	
サービス	独居	施設入所	GH	在宅（同居）	短期入所	身体介護	家事援助	通院等介助	生活介護	訪問看護
	10	44	66	90	36	1	7	5	84	8
就労	就労移行	就労定着	A型	B型	機能訓練	生活訓練	デイケア	日中一時	移動支援	訪問入浴
20	0	1	6	92	0	0	5	11	16	0

令和7年度　相談支援課　支援対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
モニタリング	20	17	22	27	11	21	23	13	17	25	23	42	261
サービスの更新（計画案・計画）	5	9	17	13	29	16	9	17	8	10	18	3	154
電話等での相談日程調整／情報収集	101	97	97	133	77	104	133	95	77	60	93	91	1057
ケース会議	10	9	6	6	11	9	5	10	7	6	5	10	84
家庭・事業所訪問個別面談	4	8	6	7	4	8	5	6	8	3	3	4	62
見学（体験）同行通院同行	8	2	6	6	2	5	4	2	2	0	4	3	36
サービスの追加・変更（計画案・計画）	1	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	8
支援の開始	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支援の終了	0	2	0	3	1	0	1	0	0	0	1	0	8
新規依頼	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5
その他支援	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
支援対応件数	149	145	161	197	136	164	182	143	119	107	147	153	1679

□年度当初契約件数:219件　　□(3/31現在)契約件数:210件

◇ケースの傾向

ご両親が健在なうちに在宅から GH や地域での生活を考えているお話を伺い、見

学や体験など法人内の GH に限らず、ご本人の生活が過ごしやすく居心地が良い GH という視点で相談員が調整をしている。今の事業所ではないところで日中活動をしてみたいというご希望もあり、見学体験本利用の調整等も行っている。

【委託相談　クローバー】

◆相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	6	3	8	4	6	4	3	5	3	4	7	5	58
知的	3	0	3	0	3	0	0	0	1	0	3	0	13
精神	3	3	5	4	2	3	3	5	0	3	2	4	37
身体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
児	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1	1	1	7
終了	1	3	6	1	3	3	1	1	2	2	3	10	36

◆相談内容

福祉サービス	障害の理解	健康・医療	傾聴	保育・教育	人間関係	家族関係	家計・経済	住居	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他
16	3	1	0	7	0	6	2	3	10	8	2	0	0

◆クローバー内のよるべ会の担当地区
（介護保険の包括支援センターに合わせて割り振り）とよかわ、かみふなか、そがしもそが、こうづ、たちばな　＊人口規模 4.5 千人

◆地域で暮らす精神障がいのある方やそのご家族からの相談が多い
＊相談内容は上記表参照

◆地域生活支援拠点等事業のコーディネーターとしてケースのアウトリーチ
基幹相談が事務局となり足柄下郡（小田原、箱根、真鶴、湯河原）にお住いの療育手帳 A1、A2 でサービスを利用していない方へのフォロー

◆電話当番：週３回（火曜 PM／水曜 AM／土曜 PM）
⇒関係機関からの連絡、生活に不安がある方からの電話の傾聴

◆おだわらピアステーションの事務局
・月１回ピアさんとの定例会
・フリースペース（毎月第３金曜日）の運営
・ピアーザ（おだわらピアステーション主催の精神障がい者対象の座談会）の運営補助

①6/21（土）②9/27（土）③12/20（土）④3/21（土）

・学生や民生委員などを対象としたピアさんの体験発表

①6/27（金）市民学校での講演　②11/14 精神保健福祉ボランティア講座

・10/25（土）開催のハートフェスタ（精神障害者の啓蒙活動）の実行委員会

・2/16（月）自立支援協議会の精神障害者地域生活支援部会との共同開催のフォローアップ講座の準備

・2 月中旬～3 月の上旬にピアさんと年度の振り返りの個別面談を実施

◆小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町自立支援協議会

○全体会

①6/30　②11/10　③3/17

○相談支援部会

①7/30　②2/27

○精神障がい者地域生活支援部会

①10/3　②12/15　③3/6

◆（保健事務所主催）地域精神保健福祉連絡協議会地域移行部会

①9/3　②12/4 研修会　③1/20　④2/9　⑤2/13

◆（圏ナビ主催）県西地区基幹・主任相談支援専門員連絡会

①7/9（県の研修会）②11/17　③1/23

【地域生活支援室】　令和７年度　事業報告書

〔１〕運営目標

・入居者が地域で安心して安全に生活できるように支援します
・入居者のライフステージに沿いながら、利用者主体の支援を行います
・地域との繋がりを大切に取り組んでいきます
・職員のスキルアップを図ります

〔２〕取り組みと状況報告

【二宮地区】

コロナ感染症による制限などが緩和されてきたが、共同生活を送る上での感染対策を継続して行いながら支援を行っている。

感染症などが落ち着き、利用者の自由度が高くなってきたこと。制限などの見極めが難しく、利用者がわかりやすく伝え安全に生活できるように支援をおこなった。ホーム事毎に利用者からの要望等を確認する場面として、月に一度の話し合いについては継続して実施出来た。今後は実施ホームを増やしていけるように日程調整を行っていく。

楽しみとして、ホーム毎・合同でのイベントを行い、利用者同士が良い関係性を維持できるように継続して楽しみの場を提供できるようにしたい。

職員間の情報共有として、昨年度から継続して Google カレンダー・LINEWORKS を活用しながら、業務などの進捗状況を確認しながら必要な支援がタイムリーに実施できるようになった。新たに同一業務ができるようにデータベースを作成し、業務の明確化を進めることも出来た。

〔個別支援事例： 18 歳　区分 3〕　わらべの杜より新卒で入居され、就労継続 B 型へバスを使用して出勤している方。冷凍食品の解凍・買い物などへ行く事が難しかった中で、定期的に支援を入れることで、職員に声掛けをしながら一人で出来ることが多くなってきた。本人の自信にもつながり、表情や行動にも大きな変化が出てきている。

【小田原地区】

新型コロナウィルスの感染対策は継続して実施してきた結果、コロナ・インフルに罹患された利用者及び職員がいたが、拡大せずに済んでいる。

合同行事の GW レク・BBQ・Xmas 会を開催することが出来たとともに、ホームごとに外出行事を組むなど楽しい時間を過ごすことが出来た。

一目置かれる存在のテーマ「入居者が安心できる存在となる」に向け、ひやりはっとを継続することで職員の気づきを大切にするとともに、法人内研修への参加やインターネットでの動画研修の視聴などスキルアップを図ることが出来た。

利用者とのミーティングをわたくもだけでなく、あずさの家でも実施し、利用者

の要望や意見を聞く機会を持つことが出来、要望にあったプレゼント交換や外食を行うなど楽しむことが出来たので、今後も継続して行きたい。
地域生活支援室として一体的な運営を目指し、少しずつではあるが改善してきている。
〔個別支援事例：60 歳男性区分１〕　在宅での生活では、ぜんそくや頭痛など身体的な不調により就労継続 B 型での作業が休みがちであった。ホームに入居後は規則正しい生活習慣が身につき、地域のサークルに通ったり、移動支援を活用して楽しむことが増えた。
健康面が整ったことで休むことが減少し､作業面でも幅が広がり工賃収入も増え、欲しいものを購入できるようになり、生活に潤いが出来た。

〔３〕次年度に向けて

地域生活支援室として、一体的な運営が出来るよう良い支援体制を構築し、より質の高い利用者支援が展開できるようにしていく。また、利用者負担についても適正なものとなるよう協議していく。

入居者が安心して生活できるようニーズを的確に把握して、ニーズに即した支援が出来るように利用者とのミーティングを広げていきたい。

共同生活援助事業として求められる支援を適切に提供できるよう各職員が学びをする機会を持ち、権利擁護、意思決定といった考え方を理解していく。

地域行事に積極的に参加するとともに､地域連携推進会議等を定期的に開催し、地域との連携・交流を図っていく

〔４〕利用者状況

【二宮地区】

■年齢区分（令和8年3月31日現在）

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男	2	5	1	7	5	4	1	45歳	25
女	0	0	0	0	3	2	2	64歳	7
計	2	5	1	7	8	6	3	55歳	32

最小年齢　：　19才　・　最高齢　80才

■障害支援区分（令和8年3月31日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	
男	1	1	11	11	1	0	0	2.5	25
女	0	0	1	2	4	0	0	3.4	7
計	1	1	12	13	5	0	0	2.7	32

■在所年数（令和8年3月31日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男	0	0	3	2	8	3	0	9	25
女	1	0	0	0	1	1	2	2	7
計	1	0	3	2	9	4	2	11	32

■開所日数および利用者数・利用日数（令和8年3月31日現在）

【かめりあホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
実人数	男	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
延べ利用日数		600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	580	620	7320
実人数	女	9	8	8	7	7	7	7	7	7	7	8	8	90
延べ利用日数		270	248	240	217	217	210	217	210	217	217	232	248	2743

【ポラリスホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
実人数	男	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	52
延べ利用日数		150	155	150	155	124	120	124	120	124	124	116	124	1586

【小田原地区】

■年齢区分（令和8年3月31日現在）

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男	0	3	1	3	3	5	4	54歳	19
女	0	0	1	0	3	1	2	63歳	7
計	0	3	2	3	6	6	6	58歳	26

最小年齢　：　21才　　・　　最高齢　　91才

■障害支援区分（令和8年3月31日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	
男	0	1	10	3	3	1	1	2.5	19
女	0	0	1	1	1	3	1	3.4	7
計	0	1	11	4	4	4	2	2.7	26

■在所年数（令和8年3月31日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男	2	0	2	2	7	6	0	0	19
女	0	0	1	0	0	6	0	0	7
計	2	0	3	2	7	12	0	0	26

■開所日数および利用者数・利用日数（令和8年3月31日現在）

【あずさの家】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	147
延べ利用日数		354	359	354	366	365	371	392	380	396	380	364	397	4478
実人数	女	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	76
延べ利用日数		183	217	210	212	186	180	217	210	186	217	168	186	2372

【エピナールホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	64
延べ利用日数		149	148	150	155	155	150	163	165	176	183	168	186	1948
実人数	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延べ利用日数		303	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	638

■令和7年度　新規入所者年齢（令和8年3月31日）

	計	10～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳
男	5	3	0	1	1	0
女	1	0	0	0	1	0

■令和7年度　退所者状況　（令和8年3月31日）

	計	自宅	介護施設	他
男	1	0	1	0
女	4	0	2	2

〔５〕短期入所

あずさの家事業所　【ポプラの家　空室利用】

短期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	8	8	8	8	8	7	6	6	6	6	6	8	85
延べ人数	12	13	12	14	11	13	14	12	9	11	12	11	144
延べ利用日数	30	34	38	35	30	32	37	29	24	31	30	30	380

〔６〕令和７年度　まとめ

（評価　○・△・×）

項目	具体的活動	到達点	実施状況	評価
権利擁護の確立	【権利擁護の確立】 ・権利擁護の学習の場、研修へ積極的な参加を作る ・虐待防止自己チェックを実施する	年2回の自己チェックを設定し、学習の場を計画通りに実施し、権利擁護に対する意識が高まった。	権利擁護に関する学習の機会がなかなか作ることができなかった。来年度以降の課題として、今年度中にどのような方法なら学習の機会が作れるのかを考える。	△
人材の確保育成	【人材の確保、育成】 オンライン研修や法人内外の研修に積極的に参加する。 ・実習生を受け入れる。	定期的にオンライン研修を受講する機会を設定できた。 実習生の受け入れを実施する。	グループホーム連絡会などへ参加することはできたが、積極的な参加までつながらなかった。実習生の受け入れに関しては進めることができなかった。地域生活支援室としてどうしたら受け入れることができるのかを今後も検討していく。	△
業務の検証と改善	【業務の検証と改善】 ・2地区での業務状況を確認し、平準化を図る。 ・現場からの提案を業務に反映していく。	業務の見直し、共通ルールを作成できた。定期的に職員会議を開催し、QOLの向上につなげる事が出来た。	各ホーム会議・ミーティングを継続して実施することができ、職員だけでなく、世話人からの要望を聞くことができた。業務改善に向けてデータ管理できるツールを作成できた。	△
地域社会との連携	【地域社会との連携】 ・地域連携推進会議の開催 ・ホーム毎に地域の行事等に参加してかかわりを深める。	年2回の会議開催・ホーム見学を実施できたか。 地域活動に参加できたか。	地域行事がなかなかなく、参加することができなかった。地域の方とも多くかかわりは持てなかった。地域連携推進会議に関しては上半期に実施でき、委員の方が運営している事業所へ利用者が参加するなど関係づくりは行う事ができている。	○

※地域連携推進会議の開催

	日時	参加者	実施場所	概要
かめりあホーム	令和7年9月2日	5名(5名中)参加	SP企画　2F食堂	・自己紹介 ・事業所説明 ・令和6年度事業報告及び令和7年度事業報告 ・ホーム見学　…　第一回目の会議の為、住環境を見ていただき、気になる個所などについて説明を実施。 ・意見交換　…　保護者より、子供がホームに入居していて、「楽しく生活していることが毎日の電話で伝わってくる。」・目標をもって生活していて、ホームに入ってよかったと思っている。 ・総評　…　第1回の会議ということもあり、まずはGHがどんな場所なのか知ってもらう機会になったと思う。回数を重ねていくことで、様々な意見がでてくると思うので、その意見を聞きながら、生活の質をあげられるように支援を今後も行っていく。
あずさの家	令和7年8月30日	5名(5名中)参加	ポプラの家	
ポラリスホーム	令和8年3月17日	9名(6名中)参加【見学者3名】	エピナールホーム	

〔７〕防災

・４月…防災業者よる設備点検・BCP 計画の見直し
・6 月…避難経路等の確認・防災機器の確認
・8 月…災害時の避難場所や連絡手段の確認（実際の津波警報による避難を含む）
※　GH の検査対象（消火器等）を基準と照らして検査した。年間 2 回、業者委託による検査を行った。
※　まとめ …　年間を通して予定した防災訓練や点検等を実施した。防災委員会の立ち上げまで実施できなかった為、次年度の課題としたい。

〔８〕リスクマネジメント（事故報告）【4/1-3/31】

【二宮地区：32 件・小田原：41 件】

種類	回数	内容等
服薬	11	配達忘れ・残薬の確認不足・飲ませ忘れ
利用者トラブル	11	他害行為（噛みつき）所在不明・利用者自身が落とし物
その他	51	書類関係の引継ぎ不足・連絡忘れ・食事変更の連絡不足

■＜重大事故＞　なし　※県・市町へ報告

〔９〕苦情解決　　苦情件数　0 件

※入居者とのミーティング等を実施している
わたくも　：毎月１回、役割分担や目標設定などを協議している。毎週食事会。
あずさの家：毎月１回、楽しいホームにするためをテーマに協議している。
ポプラの家：管理者が遅番勤務の際に夕食時に意見収集している。
ナスカの家：ナスカの会を実施。（不定期）利用者からの要望の聞き取り、
ホーム生活におけるルールなどの確認を実施している。
＜外出レク　外食・運動支援・登山・プール・遊覧船＞
＜合同行事　（ホームレク）　手巻き寿司レク：11/25【二宮地区】＞
＜合同行事（クリスマス会）音楽会・食事会：12/14【小田原地区】＞
＜合同行事　　新年会　：1/10　＞

【手巻き寿司レク】　　【クリスマス会】　　【新年会】

【コスタ・二宮】　令和７年度　事業報告書

〔１〕運営目標

① 【就労継続Ｂ型＝コスタ・二宮/食品部門】

・食品製造作業を主体として、オリジナル商品の強みを生かして収入を向上させ、工賃支給額の向上に努めた。また利用者個々の適性を活かして、適切な作業提供を行った。

【生活介護＝ＳＰ企画】

・豊かな社会生活を過ごすために生産活動・学習活動・創作活動等のプログラムを個々のニーズに基づき提供した。「はたらきたい」という方のために、安定した作業の確保を行った。

② 【その他】

・施設満足度向上の為、開所日を利用して充実した余暇支援の提供をした。

〔２〕取り組みと状況報告

① 令和７年度も原材料や燃料光熱費などの物価高騰が続いた。製パン・製麺事業の収入は減少。支出は増加した為、収支は昨年を下回った。引き続き収入増を目指した営業活動を行い、支出を抑える意識を高め対応した。新規で二宮町のふるさと納税に登録し、自動販売機の冷凍販売の協力を得られた。学校給食では少子化により緩やかに児童数が減少しており減収の要因である。令和８年度も値上げを実施していく。引き続き市場経済状況に合わせ収入の向上が図れるように努力を続ける。

② 利用者支援に関しては、他班の相互利用で柔軟性のある支援内容に努めた。また計画相談や法人内他の事業所との連携を目的として、コスタ会議に「よるべ沼代」と「地域支援室」・「相談支援室」職員の参加協力を得られた。

■事例Ｋ・Ｋさん２９歳・男性・区分無。日常生活や製パンＡ班の環境や人間関係でストレスを感じているようで、感情の不安定が多かった。ご本人の心の変化や成長も考えられる為、神奈川県の巡回相談を利用して対応を検討する。計画相談や保護者と協議を重ね製麺班での体験を実施。以前より安定されたため、令和８年４月から正式に製麺班に所属する。関係者のご協力のもと、本人への支援は継続中である。

③ ＳＰ企画では新規作業として、後援会の協力によりアルミ缶つぶし、合同会社アフガンサフランから、ドライフルーツの封入作業等を開始した。生産活動では引き続き小田原提灯製造とクラッチパーツ、自主製品である紙袋を作成販売している。また個別支援では、毎月の料理教室や買い物・外食・図書館利用等の外出支援を実施し、支援の質の向上を果たせた。

④ 余暇支援では、開所日にクラブ・委員会活動を実施。３つのグループに分かれ

て外出や活動を楽しんだ。委員会の役割を明確化し、より良い施設環境づくりを目指した。また施設全体行事として、日帰り旅行やよるべ祭り、ふれあい祭り、Xmas 会、新年会、各作業班での外食など、楽しみの機会を作った。

◆収支状況（過去 3 年）

年度	項目	製パン(B 型)	製麺(B 型)	SP(生活介護)	合計
令和 5 年	収入	12,507 千円	7,548 千円	1,142 千円	21,161 千円
	支出	11,304 千円	7,069 千円	1,258 千円	19,632 千円
	収支	1,202 千円	479 千円	△152 千円	1,529 千円
令和 6 年	収入	12,871 千円	8,112 千円	943 千円	21,927 千円
	支出	11,021 千円	7,209 千円	506 千円	18,738 千円
	収支	1,849 千円	903 千円	437 千円	3,189 千円
令和 7 年	収入	12,118 千円	7,999 千円	1,774 千円	21,892 千円
	支出	10,854 千円	7,415 千円	1,088 千円	19,357 千円
	収支	1,264 千円	584 千円	685 千円	2,535 千円

〔３〕次年度に向けて

① 「B 型事業」では、中東情勢の悪化から石油製品の原材料や水道光熱費他の値上げが想定される。世界情勢を把握して価格調整や経費削減を行う。引き続き新規委託店舗の開拓や商品値上げを含めて、収益につながる活動を積極的に行う。そして「一目置かれる存在」としてコスタ、ＳＰ企画を地域社会に知ってもらう為、ふれあい祭りの開催や、二宮・大磯町の福祉祭り、商工会のイベントバザーに出店する。引き続きコスタのパン・麺・焼き菓子の知名度を向上させ、ＳＰ企画での紙袋他自主製品を販売促進として利用し、売り上げ増を目指す。また報酬改定に合わせた適切な工賃支給に努める。

② 「生活介護事業」では受注作業と、創作・自主製品作成の作業班に分かれて活動を行なっていく。アルミ缶作業とドライフルーツの新規作業は定着したので、次年度も新規作業を検討していく。自主製品である紙袋や封筒の他に、他事業所と協力の機会を作り、新たな商品開発に努める。また個別プログラムの充実を図り、理学療法士の機能維持訓練や看護師による健康指導など、継続して行なっていく。

③ 満足度調査を実施した集計結果は、概ね満足だったが課題や気づきがあった。改善できる部分もあり、より良い施設運営の為に、職員間で共有し目標や改善の機会として取り組む。クラブ・委員活動では、その役割に応じた環境美化・医療・行事ほかの活動と情報発信を行い、施設生活の充実を図る為に、利用者主体で職員と協力して活動する。また意思決定支援や権利擁護を大切にし、開所日の中で余暇支援を自分たちで決められる機会を設けて、利用者主体で活動できるような支援に努める。

④ 自然災害と感染症 BCP の訓練と研修は年度末までに実施できた。法人での共通研修も活用し、事業所では 9 月と 12 月に計画し、内容を検討して効果的に行う。

〔4〕利用者状況

【利用者状況】

■年齢区分（令和8年3月31日現在）

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男（B型）	0	2	2	7	3	1	0	45	15
女（B型）	0	0	3	2	2	3	0	50	10
男（生介）	0	4	3	4	0	3	1	44	15
女（生介）	0	2	0	0	3	0	2	51	7

最小年齢　：　22才　・　最高齢　80才

■障害支援区分（令和8年3月31日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男（B型）	3	0	4	3	5	0	0	2.5	15
女（B型）	3	0	2	4	1	0	0	2	10
男（生介）	0	0	1	5	7	2	0	3.7	15
女（生介）	0	0	0	3	3	1	0	3.7	7

■在所年数（令和8年3月31日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男（B型）	0	2	2	2	3	3	1	3	15
女（B型）	0	0	1	3	4	1	1	0	10
男（生介）	0	1	8	3	1	1	1	1	15
女（生介）	0	2	1	1	1	1	1	0	7

■開所日数および利用者数・利用日数（令和8年3月31日現在）

【生活介護（生産型）】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数		22	21	21	23	20	22	129
実人数	男	14	15	14	15	15	15	
延べ利用日数	男	273	254	270	322	274	303	1696
実人数	女	7	7	7	7	7	6	
延べ利用日数	女	94	105	109	117	84	98	607
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		23	20	22	21	20	22	257
実人数	男	15	15	15	15	15	14	❖
延べ利用日数	男	319	241	278	271	253	274	3,332
実人数	女	6	6	6	7	7	7	❖
延べ利用日数	女	101	84	96	102	93	117	1,200

【就労継続支援B型】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数		22	21	21	23	20	22	129
実人数	男	13	13	13	13	14	14	
延べ利用日数	男	253	253	260	283	255	287	1591
実人数	女	12	11	11	11	11	11	
延べ利用日数	女	190	175	180	206	169	189	1109
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		23	20	22	21	20	22	257
実人数	男	14	15	15	15	15	15	❖
延べ利用日数	男	292	268	300	290	268	309	3,318
実人数	女	11	11	11	10	10	10	❖
延べ利用日数	女	206	175	197	179	163	192	2,221

■工賃実績（前年対比）令和6年4月～令和8年3月までの一人当たりの月平均

	令和６年度実績	令和７年度実績	備　　考
生活介護（生産型）	目標（3,000） 1,375	目標（3,000） 2,888	・小田原市観光協会（提灯組立）・太陽物流（自動車部品） ・共同受注（水道メーター解体）・秋沢農園（ミカン皮むき）
就労継続支援B型	目標（23,300） 23,026	目標（23,600） 23,091	・製麺、製パン作業 ・施設外支援（柳川乳業）

〔５〕令和７年度まとめ　※各事業所の課題および実施状況

具体的活動	到達点	実施状況	評価
権利擁護 ・法人での権利擁護活動に参加。・コスタ会議で権利擁護委員会を実施する。・職員・利用者共通の学習会を年2回開催。・権利擁護と虐待防止自己チェックを年2回の実施。	委員会が効果的に実施された。設定した目標回数通り研修・自己チェック　他を実施できた。	法人内の権利擁護研修に非常勤職員も多数参加してもらえたが、その後の研修にはつなげられていない事を反省する。Eラーニングの定期的視聴や学習会の計画が必要であった。次年度の目標とする。権利擁護についての自己チェックを継続し、意識向上の機会を作れた。コスタ会議内での確認や開所日に、研修の機会を設けられると良いと感じた。	△
人材育成 ■関係機関と積極的に関わり、人材の確保に努める。法人人材育成部会の示す方向性に従い、事業所内で人材育成を計画的に取り組む。 ■人材育成担当による、学習プログラムの検討。育成学習の機会を年３回設定	人材確保に向けた準備や計画が行えた。人材育成についてコスタ職員チームでプログラム内容を作成し実施した。	必要な研修に各職員が参加できたかと思う。施設見学会や実習生の受け入れなども引き続き行なっていき、個々のスキルアップや育成ができるよう次年度も取り組んでいく。 Ｅラーニングを使用した学習とケース会議の機会が不足していたと感じる。対面で意見交換が行なえる学習の機会を毎月計画的に行うことが出来なかった。人材育成の為に職員間のコミュニケーションを増やす事と、Ｅラーニング学習とケース会議の定期的な開催を次年度の課題とする。	○
業務検証と改善 ■コスタ＝コスト削減を意識し、食品ロス残渣を減らす。 ■SP＝運動や芸術活動など、個別支援に対応した内容を検討し、利用者支援につなげる。	毎月のコスト見直と削減ができた。新しい内容が作られ、取り組みが実施された	節電・節水他コスト削減の為、各作業班での声掛けと使用料金回覧を実施。全体の意識を高められた。またフードパントリーや子ども食堂、農業関係者へ余剰食品や残渣を提供し減少を実現できた。 ＳＰは個別のニーズを把握し、細やかな個別対応が実現できた。クッキング・運動・歌会の全体的な取り組みを実施。メニューを幅広く取り組めた。	○
地域社会との連携 秋祭りの開催を目指し計画。二宮・大磯町の地域社会に積極的に関わる。（自立支援協議会、社会福祉協議会、工業団地、地域防災、近隣　自治会の関りを継続）	コスタ秋祭りが関係機関と連携して、規模を拡大して実施できた。二宮・大磯町での関係性を継続し発展できた	コスタふれあい祭りを７年ぶりに実施。工業団地組合他関係機関と連携して、良い結果を出せたと感じる。R8年度に向けて課題もあるので、振り返り整理して計画的に取り組んでいく。また自立支援協議会や工業団地組合の会議など継続的に参加した。商工会をはじめとした協力機関のバザーイベントには、積極的に参加できた。	○

〔６〕防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
4 月	水消火器を使った消火訓練体験	利用者・職員	水消火器を使用し、消火器の使い方や消火のやり方を学習した。
9 月 3 月	避難誘導訓練と初期消火・通報訓練	利用者・職員	地震、火災が発生したと想定し初期消火や避難誘導訓練の実施。自然災害が増えていることや備蓄品の用意などの話をする。

〔７〕リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	1	配達ミスがあり、慌ててしまい滑って転倒した。
ケガ	1	エブリバックハッチを閉める際に額にぶつけ流血した
利用者トラブル	0	
車両	1	コスタ敷地内でカンナカンナ保護者の車両に衝突。
物品破損	1	コスタ内雨漏り修繕。
その他	2	製パン、製麺ともに髪の毛など異物混入に気付き対応。

《重大事故》　※令和 7 年度は県・市町へ報告は 1 件。

令和 7 年６月３０日。O・C さん。ＳＰ企画昼食食材を運搬返却時、エブリのバックハッチを閉める際に扉が額に接触し裂傷。すぐに通院し縫合処置。湯河原町、二宮町へ報告。再発防止策として車両扉の開閉は利用者さん一人で行わず、必ず職員と一緒に行う。

〔８〕苦情解決

苦情件数　　０件

・歯磨き指導（9 月）　　・コスタふれあい祭り(10 月)　　・Xmas 会(12 月)箱根へ

【梅香園】　令和７年度　事業報告書

〔１〕運営目標

「利用者さんの力を引き出す」を念頭に、より良い支援の提供を目指す。

・利用者さんに安心で安全なサービス提供をする。
（ヒヤリはっとや、気づきを検証し改善策等を実施する。）

・会議のあり方を再検討し、内容の充実を図る。
チーム支援への意識形成に向けて会議のあり方を再検討し、内容の充実を図る。思いやりを持って寄り添い、より良い支援を提供するために、会議が職員相互の理解、課題の共有の場となるよう工夫し、チーム力の向上につなげる。利用者の充足感や、支援者のモチベーションとなる充実した時間がつくれるよう進める。

・サービス事業の充実を図るため、業務の検証と改善を進める。
（利用者の適性や特性を考慮した活動内容等を検討し、最善な利用者支援を展開する。）

〔２〕取り組みと状況報告

感染症対策として毎日の検温、体調管理、消毒等の対応を継続。全体行事や余暇活動を実施し、利用者の楽しみにつなげた。業務改善では、昼食時の介助や見守り業務の体制を改善し、効率化を図った。また、経営の安定を図るため、見学や体験利用の受け入れを積極的に実施して、利用実績に繋げたが、経費の削減等の課題もあり、根本的な解決には至らなかった。

■個別支援計画の事例　K.K さん　28 歳男性　区分 5。思いを伝えることが苦手であり、自身の要求が通らないことに対して、感情のコントロールが効かず、他害が頻繁となりサービス利用の継続が難しい状況となる。近隣の事業所での利用を試みるが安定した利用に至らず。令和６年６月 精神科通院の際に粗暴行為があり保護入院となる。退院後は、自宅で過ごしていた。令和７年 梅香園の見学、体験利用を経て、10 月に利用を開始。本人の自主性を引き出しながら、短い時間から数十分単位で時間を延長。「休憩したい」「トイレに行きたい」「帰りたい」等のカードを利用して気持ちを伝えるように促した。休憩時間は、好きなキャラクターの本を眺めるなどリラックスして過ごせるよう配慮した。活動への見通しが持てるよう、本人のペースに合わせた作業量を提供することで作業する時間も徐々に増えた。作業時間が増えたことが本人の自信へとつながり、粗暴行為も減少した。また、支援の過程で、行動障害に対する職員の意識も向上し、本人とのより良い関係づくりにもつながった。

〔３〕次年度に向けて

・必要な感染症対策を継続し、安心安全なサービスが提供する。行事については、地域との連携や交流の機会となるよう広報活動を再検討し、進める。
・各班のサービス会議が、支援の目的や効果を意識し、支援方法の工夫や改善について検討する場となるよう取り組む。
・次年度より再開予定の就労移行事業について、スムーズな実施に向け、情報収集や必要な準備進める。
・利用者が自分の思いや希望を表現しやすい環境を整え、自分で決める力を支える。選択肢の提示や対話を通し、日常の場面で選択の機会を増やしていく。

〔４〕利用者状況

① 生活介護事業（ 定員 22 名 ）【ほがらか・きらきら・にこにこ】

■年齢別人数　　最高年齢：91 歳／最少年齢：19 歳

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代	計	平均
男	2	3	3	1	5	0	0	1	0	15	41.4
女	1	2	3	1	5	2	0	0	1	15	47.4
計	3	5	6	2	10	2	0	1	1	30	44.4

■障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均
男	0	0	1	4	5	5	15	4.93
女	0	1	1	6	4	3	15	4.47
計	0	1	2	10	9	8	30	4.70

②就労継続支援 B 型事業（ 定 員 18 名 ）

■年齢別人数　　最高年齢：75 歳／最少年齢：20 歳

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代	計	平均
男	0	3	1	2	3	3	2	0	0	14	49.0
女	0	2	1	2	3	0	0	0	0	8	40.3
計	0	5	2	4	6	3	2	0	0	22	45.8

■障害支援区分

	なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均
男	4	1	2	3	4	0	0	14	3.00
女	1	0	1	1	5	0	0	8	3.57
計	5	1	3	4	9	0	0	22	3.24

■令和 7 年度　新規利用者年齢

	20 歳未満	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	計
男	生介　2	生介　1	0	0	0	3
女	生介　1	0	0	0	0	1

■開所日数及び利用者数・利用日数

生活介護	**4**	**5**	**6**	**7**	**8**	**9**	**10**	**11**	**12**	**1**	**2**	**3**	**計**
開所日数	22	21	22	23	21	21	23	20	23	21	19	22	258
実人数	29	29	29	29	29	29	30	30	29	30	29	29	351
延利用日数	533	523	527	552	491	495	550	482	547	480	437	509	6126
就労継続 B	**4**	**5**	**6**	**7**	**8**	**9**	**10**	**11**	**12**	**1**	**2**	**3**	**計**
開所日数	22	21	22	23	21	21	23	20	23	21	19	22	258
実人数	22	23	23	23	23	23	23	23	22	23	23	22	273
延利用日数	454	445	473	475	433	449	465	427	478	431	386	445	5361

■工賃実績（前年対比）令和６年度４月～3 月までの一人当たりの月平均金額

	令和６年度	令和７年度	備　　考
生活介護	¥5,763	¥5,615	アルミ缶つぶし・自主製品作成・北原清掃 高架下除草・受注作業等
就労継続Ｂ型	¥24,841	¥22,796	ひかりの里・足柄療護園清掃・ラルース 印刷・受注作業等

〔５〕日中一時事業

■日中一時利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	4	5	5	5	4	4	6	6	6	6	6	6	63
延べ人数	44	44	27	41	40	39	41	35	45	43	42	36	477
延べ時間数	119	124	56	108	92	87	102	81	111	110	115	85	1190

〔６〕令和７年度まとめ　※事業所の課題および実施状況（評価　○・△・×）

具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護の確立】 職員研修を実施してスキルアップを図るとともに、自己チェックを行い、権利擁護に対する意識を高める	研修と自己チェックを行う事で権利擁護に対する意識が高まった。	自己チェックや振り返りが十分に実施できず、権利擁護の継続的取組の難しさと体制整備の必要性が明確となった。今後は計画的に実施し、支援の質向上につなげる。	△
【業務の検証と改善】 業務改善に向け現場職員からの意見抽出の機会と仕組みを確立する。	課題を抽出、職場環境が整備され、よりよい支援につながった。	アンケート結果をもとに昼食対応を見直し休憩確保を改善。家族満足度調査の意見を会議で共有・検討し、職場環境整備と支援向上につなげた。	△
【人材確保と育成】 法人内外での研修を計画、実施し、専門性の向上を図る	職員の専門性が向上し日々の支援に活用できた。	終礼での研修を継続実施し、外部研修の成果を共有し、学びを組織に展開。アンケートでニーズを把握し、それに応じた学習機会を整え、支援の質向上につなげた。	○
【地域社会との連携】 地域への啓蒙活動 ・地域と連携した行事運営 ・「はーとふる通信」の発行	・地域の方と一緒になった行事等の運営 ・は～とふる通信の発行	「はーとふる通信」を発行。秋祭り開催について地域周知を行ったが来園者は想定を下回った。今後は広報方法を見直し、地域を巻き込んだ連携強化が課題。	△

〔７〕防災

実施月	実施内容	振り返り
7/5	【感染症 BCP 机上訓練】動画研修 情報の共有範囲、方法について	各家庭、グループホーム等の関係個所のリストを整備して初動をスムーズにする。
7/16	【避難訓練】BCP 避難誘導訓練 避難・初期消火・通報訓練	洪水等に備え、要配慮者利用施設避難確保計画に沿って車両への避難誘導を実施、訓練の必要性を実感。

7/30	【津波警報発令】 避難実施	避難区域外ではあったが、避難を実施。アンケートを行い、改善を実施。
8/5～9	【熱中症予防】動画研修 熱中症の要因、応急対応	熱中症の応急対応については、繰り返し学習が必要。予防対策として指数計を購入。
9/2～5	【自然災害、感染症 BCP 研修】BCP とは。それぞれの必要性について。	事前準備の必要性を共通認識。作成後も改善を重ねていく。連絡網の再整備を実施。
1/17	【自然災害 BCP、感染症 BCP 訓練】 保護者・関係個所への緊急連絡	緊急連絡網の訓練実施。連絡がつかない場合の対応や夜間の連絡方法について検討。
2/18	【避難訓練】自然災害 BCP 訓練 避難・初期消火	車両への避難誘導を実施。乗車する車は基本に沿い臨機応変に対応することを確認。

〔８〕リスクマネジメント（事故報告）

種　類	件 数	内　　容　　等
転倒	10	突発行動で転倒・つまずいて転倒・座ろうとした際バランス崩す
服薬	8	落薬・錠数を見落とした・服薬が入っているとの思い込み。
怪我	7	手動シュレッダーに軍手が巻き込まれた・物が倒れ利用者に当たる
車両	13	利用者乗せ忘れ・走行中に利用者が車内を移動
物品破損	0	
その他	92	通院等の予定を失念・鍵閉め忘れ・請求金額の見間違い
合　計	130	

■＜重大事故＞　※県・市町へ報告　　０件

〔９〕苦情解決　　■苦情件数　0 件

■レクレーションの風景

納涼祭　盆踊りの様子　　秋まつりの風景

【わらべの杜】　令和７年度　事業報告書

〔１〕運営目標

① 社会的養護を必要とされている児童に対し、安心・安全な“暮らし”を提供します。
② 入退所における空床を減少できるよう調整等を図り、安定した運営となることを目指します。
③ 地域移行については早期の移行調整を図り、児童にとって最適な暮らしの場へつなげていくようにすすめていきます。

〔２〕取り組みと状況報告

・昨年度は８月に日中支援型グループホームへ高３男子児童が移行し９月に中２女子児童が他施設へ措置変更となり、３月末には高３男子児童が同法人のグループホームへ移行。小６男子児童が家庭復帰となり合計４名の児童を送り出した。
・新規入所児童の受け入れについては、４月に４名、９月に１名、令和８年２月に２名、３月に２名と合計９名の児童が措置入所となった。
・短期利用の新規契約者は８名で、毎月ご利用する方や長期休暇のみご利用の方など頻度はご家庭毎に異なりながらも、継続してご利用される方が増えてきている。また、受け入れ態勢の整備に注力しつつ、緊急を要する一時保護の依頼に対しても、年間を通じて積極的に対応した。
・こども会議やアンケートを定期的に実施し、生活のルールの見直しやレクリエーションの内容について児童の意見を反映させるなど、主体性を尊重した支援を心がけてきた。１寮では、お小遣い使用日を設けて余暇品やおやつを食べるなど、お金を貯めるだけでなく使う楽しみにも着目し、定期的にお金を使用する経験を重ねている。
・２年目となる光海学園さんとの職員交換研修は１名の職員が参加し、男子寮の支援現場を見せて頂くなど、わらべの杜とは異なる環境やアプローチを学ぶ事ができ、支援の視点を広げる大変良い機会となった。
・安全計画に沿った、防災・感染症 BCP の研修と訓練を各年２回実施した。また、どーむと合同開催で防災研修も実施することが出来た。（AED 講習・救護訓練）
・地域の行事では健民祭や駅伝等に参加させて頂いた。多くの児童が大好きなサッカーでは、ゆうあいピックへの出場や、神奈川県障がい者サッカー協会が主催するサッカー大会にも参加し、横浜国際競技場にてプレーを楽しむことが出来た。その他、地域で行われるキッズマラソン（小学生）や湘南国際マラソン（中学生）など、目的や楽しみを持ちながら体を動かす活動を展開することが出来ている。

〔３〕次年度に向けて

・児童相談所と密な連携を継続し、空床が続くことなく安定した運営を目指す。
・高等部児童が円滑に移行できるよう各関係機関との連携強化に努めると共に、日常生活おける実体験（現金の支払い方法、公共でのマナー等）を積む機会を創出し児童の自信を育ていく。
・支援の質の更なる向上を目指し、外部研修への参加や内部研修の実施等職員の研鑽に努める。

〔４〕利用者状況

■年齢区分（令和8年3月1日現在）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20歳～	平均年齢	計
男	0	9	6	10	0	0	14.5	25
女	0	3	2	3	0	0	13.3	8
措置	0	12	7	13	0	0	14.0	32
契約	0	0	1	0	0	0	12.0	1

最小年齢　：　6　才　・　最高年齢　17　才

■在所年数（令和8年3月1日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年以上
男	3	0	7	2	4	5	3	0
女	1	1	1	1	2	2	0	0

■実利用者数（令和8年3月1日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数		30	31	30	31	31	30
実人数	男	25	25	25	25	25	24
実人数	女	7	7	7	7	7	7
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数		31	30	31	31	28	31
実人数	男	24	24	24	24	25	26
実人数	女	7	7	7	7	8	8

■延べ利用日数（令和8年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数		30	31	30	31	31	30
延べ利用日数	男	750	775	750	775	775	720
延べ利用日数	女	210	217	210	217	217	210
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ利用日数	男	744	720	744	720	700	806
延べ利用日数	女	210	210	217	217	224	248

■療育手帳程度別在所者数（令和8年3月1日現在）

	最重度	重度	中度	軽度	手帳無し
男	0	1	4	20	1
女	0	0	1	7	0

令和7年度新規入所児年齢（令和8年3月1日）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	計
男	1	3	2	1	7
女	0	2	0	0	2
措置	0	0	0	0	0
契約	0	0	0	0	0

令和7年度退所児者の状況①（令和8年3月31日現在）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上	計
男	0	0	1	0	2	3
女	0	0	0	1	0	1
措置	0	0	0	0	0	0
契約	0	0	0	0	0	0

令和7年度退所児者の状況②（令和8年3月31日現在）

	障害者支援施設	グループホーム	在宅	他
男	0	2	1	0
女	0	0	0	1
措置	0	1	0	1
契約	0	0	0	0

〔５〕短期入所事業及び一時保護

【利用者状況】

■短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	１２月	1月	2月	3月	計
実人数	3	6	8	2	3	2	2	3	4	2	3	5	43
延べ人数	3	6	9	2	3	2	3	3	4	2	3	7	47
延べ利用日数	8	13	27	6	6	8	16	8	11	5	11	14	133

■一時保護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	１２月	1月	2月	3月	計
実人数	1	2	4	3	5	2	1	1	3	2	3	3	30
延べ人数	1	2	5	3	6	2	1	1	3	2	3	3	32
延べ利用日数	3	6	24	12	28	4	3	2	10	22	33	16	163

〔６〕令和７年度まとめ

具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護の確立】 （目標） 意思決定の機会を創出し子ども達の満足感を向上させる。 こども会議の実施の継続、ユニット会議にて子どもの意思表出を共有していく。また、各寮に合わせたアンケート調査を実施し、子ども達の満足感が可視化できるようにしていく。	児童が自己決定を尊重されることにより生活に対する満足感や自己肯定感が高まり生活の質が向上する。	各寮が子供の意見を吸い上げる場としてこども会議を活用し、そこから出た意見を検討し生活向上に努めてきた。担当外出やレクでの希望、生活環境の改善などに活かされている。	○
【業務の検証と改善】 （目標） 寮をまたいだ協力体制を築き円滑な業務を行う。 主幹会議にて業務の進捗状況や問題点を共有。わらべ会議にて解決に向けた検討を行い実施していく。	各寮間での連携がスムーズになり問題発生時にも迅速に対応できる体制が整う。	慢性的な職員不足を補い、また、子どもの安全を確保するために長期休みや全体のレクレーションなどでは寮をまたいでの協力体制を作り対応してきた。各寮のヘルプ体制が日常的になっていることが、寮を超えてスムーズな協力へ繋がっていく。	○
【人材確保・育成の取組み】 （目標） 実習生の積極的な受入れと法人内事業所見学の実施。 実習スケジュールにどーむでの実習を入れると共に法人内の事業所へ見学同行を行いながら福祉への興味関心を広げて頂く。	実習生からのフィードバックを受け、受け入れ態勢うや見学プログラムが改善されより効果的な学びの場を提供できるようになる。	実習生が、わらべの杜以外の事業所を体験や見学することで、福祉の様々な事業所への興味や理解に繋がった。	△
【地域社会との連携】 （目標） 地域との接点を持ち、状況に応じて地域行事の参加をしていく。 まちづくり委員会での地域行事の確認と手伝いの参加。地域行事へ積極的に参加していく	まちづくり委員会への出席と地域行事に積極的な参加ができたか	草木染めや凧揚げなど、地域への周知と共に参加者が増えている。来年度も積極的に地域と関わっていきたい。	○

〔７〕防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
４ 月・６月・９月 １０月・１１月 １２月１月２月 ３月	避難・通報・消火 ６月１０月２月【地震】	全利用者	日中の訓練時にも様々な時間帯を想定して実施をすることが出来ました。児童達にも大きな乱れなく落ち着いて訓練に参加できていると思います。
５月・７月・８月	【夜間】避難・通報・消火		

〔８〕リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
服薬	1	就薬の落薬
ケガ	2	車いすから立ち上がり右頬に擦過傷。 TV ボードへ顔をぶつけ左眉切傷
利用者トラブル	0	０
車両	0	０
物品破損	1	居室ない窓を椅子で叩き割ってしまった。
その他	4	職員への噛みつき・暴力（２） 中３児童が中２児童の首を絞める 高１児童が中２児童へプロレス技をかけ気絶させてしまう。

〔９〕苦情解決　　件数　０件

Xmas 会　　**大雪の日**

【どーむ（童夢）】　令和７年度　事業報告書

〔１〕運営目標

①安定した事業運営を目指し、その活動を広く周知していきます。
②療育が必要とされている幼児に対し、可能な限りサービス提供ができるよう努めます。
③関係機関との連携に努め、保護者への支援も実施しながら幼児期における健やかな成長をサポートしていきます。
④権利擁護への意識を持ち、関わり方の工夫と自己研鑽に努めていくように致します。

〔２〕取り組みと状況報告

・令和７年度は１９名の契約児童でスタート。小田原市では「おだわら子ども若者教育支援センターはーもにー」からの紹介を受け年度途中に７名の児童が契約、サービス開始に至っている。その他の町では保健師の方や相談支援事業所よりご紹介があり、2 名の方が契約に繋がった。
・利用児童の状況は年中・年少が増加傾向にあり、週 2～3 回の利用をしている児童が１２名となっている。
・昨年度も「発達支援」「家族支援」「移行支援」を支援の３本柱として支援にあたってきた。
・発達支援では、クラス分けを継続しながら児童の発達段階を捉え、排泄や食事、課題など個々に合わせた支援を提供。最近では情緒的な課題を抱える児童も増えてきているので、その時の様子をしっかり確認し子どもに負荷の掛からない、気持ちが安定できる療育を展開してきた。
・家族支援では昨年度も家族レクレーションを 1 回、11 月には卒園児の保護者に依頼し、就学時や小学校生活のお話をしていただいた。3 回目は保護者同士の交流をメインとした茶話会を実施。どの会も充実した時間となった。
・移行支援では、年長児９名の児童とご家族が安心して小学校へ入学できるよう、併行通園先や就学指導委員会と連携しながら進める事ができた。時に、療育機関として進路先の相談に乗りながらアドバイスを行う場面もあり、低年齢より通園している事が保護者とのやり取りをスムーズにしていると実感した。
・職員研修ではつくしんぼ教室へ見学に行かせて頂き、日課や身支度における動線などを考える良い機会を頂いた。防災研修として、わらべの杜と合同で AED 講習と救護訓練を実施している。
・職員の事務効率向上のため日々の記録の取り方などの見直しを進めてきた。
日々の記録の記述の仕方や終礼の進め方を変えることで記録にかかる時間が減少している。

〔３〕次年度に向けて

・幼稚園や保育園等での集団活動の中で子どもが感じている不安やストレスを軽減できるよう、情緒の安定を第一に療育的な視点から温かいサポートを行う。
・「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の５領域を軸に個別支援計画の作成を行う。
・家族支援として、保護者と子どもが共に楽しめる場と、保護者同士の交流や勉強会などを目的に年３回の茶話会を開催し、より良い情報共有の場となるよう取り組む。
・小田原市が主催する「早期発達支援事業（研修）」と児童発達支援事業所連絡会に参加を行い、地域福祉の動向を知ると共に他事業所とのネットワークを深める。

〔４〕利用者状況

■年齢区分（令和8年3月31日現在）

	3歳未満	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児以上	平均年齢	計
男	0	0	2	9	8	5.3	19
女	0	0	1	5	1	5	7

最年少　：　4　才

■在所年数（令和8年3月31日現在）

	3ヶ月未満	3ヶ月～6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年以上
男	0	0	8	10	1
女	0	0	3	4	0

■開所日数および利用者数・利用日数（令和8年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		21	21	20	21	21	18	23	21	20	19	19	21	245
実人数	男	14	17	18	18	18	19	19	19	19	19	19	19	218
延べ利用日数	男	75	90	86	78	84	87	93	85	80	89	73	80	1000
実人数	女	5	6	7	7	6	6	7	7	7	7	7	7	42
延べ利用日数	女	28	42	38	38	33	37	42	38	32	37	41	37	227

■住所地　（令和8年3月31日現在）

	小田原市	中井町	大井町	松田町	開成町	二宮町	大磯町	他
男	13	5	1	0	0	0	0	0
女	6	0	0	0	0	0	1	0

■入退所状況（（令和8年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	男	2	3	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	8
入所	女	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
退所	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8	9
退所	女	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2

〔５〕令和７年度まとめ

項目	具体的活動	到達点	実施状況	評価
業務の検証と改善	通園児童のクラス分けの実施や職員の役割分担などを明確にできるように、会議の場で検討し実施していく。	少人数でのクラス分けにより児童の情緒が安定し、より良い時間を過ごせるようになった。また、職員の動きが整理され、業務の効率が上がった。	特性や相性に考慮したグループ分けをすることで、一人一人が情緒を安定させ、良い刺激を受け合い成長する姿が見られた。職員の役割を明確にすることで、支援をスムーズに行う事ができた。引き続き、教室の使い方なども検討し、より落ち着いた環境で支援できるよう努めていきたい。	△
地域社会との連携	各機関と密な連携を取りながら、ご家族が安心して通園や就学が行えるように支援していく。	全ての家族に対し、関係機関との連携を行うことが出来た。	併行通園先との様子の共有を行い、整合性のある支援ができるよう努めてきた。各機関と連携することでそれぞれの役割を確認し丁寧な支援をすることが出来た。	△

〔６〕防災

実施	実施内容	対象	振り返り
毎月１回	避難・通報・消火	全利用者	曜日を変え毎月実施。活動の途中でも混乱なく切り替え避難することが出来ていました。

〔７〕リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
服薬	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	0	
物品破損	0	
その他	0	

《重大事故》　※県・市町へ報告　０件

〔８〕苦情解決　　苦情件数　　０件

親子レクレーション　　砂場遊び

【　ぽけっと　】　令和７年度　事業報告書

〔１〕運営目標

障害者就業・生活支援センターとして、「就職や職場適応などの就業面の支援や、生活習慣の形成や日常生活の管理など生活支援が必要な障害者に対して、就業に伴う日常生活、社会生活上の支援を行い、身近な地域で就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供し、職業生活における自立を図る」を目的とした事業運営を基本に、職員のスキルや経験を活かしたライン制を構築し、より効果的な支援提供を目指した。また、これまで取り組んできた虐待防止体制（権利擁護）を維持しながら、より良い相談支援の場として取り組めるように、登録者と同じ風景を観ながら各自の相談スキル・コーディネート力の向上を図ることを運営目標とした。

〔２〕取り組みと状況報告

障害者支援センター「ぽけっと」は「障害者就業・生活支援センター事業」において、県西障害保健福祉圏域を中心に、障害種別を問わず障害のある人の就業に関する相談や支援及び生活支援を実施した。

＜今年度の目標と実績＞

項目	就職件数	実習件数	就職率	定着率（1 年）
目標	43 件	45 件	80.0%	85%
実績	**49 件**	**48 件**	**87.5%**	**87.8%**

今年度も目標値を全て上回った。

公官庁・関係機関等の連携強化と障害者雇用をしている企業からも直接の雇い連絡も多く成果が出たと思われる。この状況を鑑み、ハローワークや福祉サービス事業所との取り組みとして、今年度も①圏域職業安定所との連携強化（チーム支援会議等の隔月実施）②中小企業家同友会への参加（ダイバーシティ委員会の役員等）③県西圏域（足柄上下郡）自立支援協議会での連携強化（行政・事業所との横の繋がり）を実施した。

事業主支援としては、企業交流会を 3 回実施、総合計 163 名参加をいただき好評であった。

ネットワーク構築としては、自立支援協議会就労支援部会を始めとし、年間 42 回主催として活動。年々関係性の構築として強化の成果は出ていると感じる。

登録者へ向け、職場定着・就労促進に向け対面でのピア、勉強会、在職者交流、及び生活支援としてフリースペースをニーズに合わせ開催、アンケート等で高評価を頂いた。

■＜事例＞「B 型事業所を併用した障害者雇用の取組」2024 年より開始された超短時間雇用制度（週 20 時間未満）を活用し、福祉サービス事業所、ハローワーク、行政、企業が連携した就労支援を行った。

当事者は「働きたいがB型事業所を離れることに不安がある」との意向があり、制度の説明を行ったうえで、B型通所と雇用を併用する形で支援を開始した。職種や勤怠面のマッチングを行い、「おはぎ屋」での体験実習につなげた結果、双方の合意に至り、1日3時間・週4日の雇用契約を締結した。

現在は、B型事業所に午前中通所し、午後から「おはぎ屋」で3時間勤務する形で就労を継続している。本取組により、就労状況の把握が可能となり、必要に応じて事業主との連携を図ることで、安定した就労環境の構築につながっている。また、当事者の働きがいや意欲の向上にも寄与している。

本事例は、企業および関係機関との連携による好事例であり、今後も同様の併用型雇用の拡大を図っていきたい。

〔３〕次年度に向けて

上記の事例をより充実、目標を達成できるよう行政・サービス事業所との連携・理解促進を図るとともに、所内連携（内部コミュケーション）の再徹底を図る。実績目標は今年度同水準以上を目指していくとし、数値のみでなく、質として事業主及び当事者が満足できる結果となるよう、職員の資質向上を目指す。個々の質を上げるため「ライン制」から「ユニット制」（3人体制）に検証・効果の確認をしていきたい。伝える力（知識・説明力・相手のニーズをつかむ力）を高め、コーディネート力の向上を目指す。

〔４〕登録者状況　（令和８年３月３１日現在：６３０名）

■開所日数および延べ相談支援件数(令和8年3月31日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数	23日	23日	25日	23日	25日	22日	
相談支援件数	317件	393件	364件	391件	359件	387件	
	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
相談支援件数	24日	23日	23日	23日	21日	23日	278日
合計	460件	468件	447件	391件	369件	397件	4693件

■市町村別相談支援件数

小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	南足柄市	中井町
2520	90	110	334	494	17
大井町	松田町	山北町	開成町	その他	合計(件)
269	228	225	171	235	4693

■就業支援年間実績(令和8年3月31日)

新規登録者数	職場実習斡旋数	就職者数	1年以上離職者数	1年以内離職者数
99(52)	48(22)	49(20)	19(7)	2(0)

※（　）は精神障害者の数を表す

〔５〕令和７年度まとめ　※各事業所の課題および実施状況

【項目】 具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護】 ・権利擁護について、チェックリストでも効果測定を定期的に実施し、日常的に話し合える土壌を作る。権利擁護できる力の向上を意識する。	・権利擁護とは何かぽけっとからの視点で伝えることができる（使用者虐待等）。 ・権利擁護の実現に向け日常的に話し合える機会の実践を図る（事業主支援向上等）	今年度は人権擁護の効果測定を１度実施した。また、毎月の会議にてひやりはっとの確認、必要に応じ検討を実施した。４月からのひやりはっとを毎月振り返る事で、検討した事項を振り返る 良い機会となった。ただ、同じ項目のひやりはっとが続く為、再発防止につながるような検討を行っていきたい。	○
（人材育成） ・ライン間での人材交流及び交流会等でのファシリテーター等を担 うことで実践力を高める。 ・ケース検討を実施する。 ・メンタルヘルスについて所内勉強会を実施。 ・知識（研修）を得て、情報の発信をしていく。	・なかぽつ職員としてコーディネートができる。 ・ケース検討 ・精神医療勉強会等を通して全体的の底上げができた。	今年度はライン制にとらわれず、ペア担当制での支援を行った。企業とのかかわりが少なかった職員が企業とかかわりを持つことで、支援の視野が広がっている。また職員同士のコミュニケー ションも増加し、良い傾向。年度末に振り返りを実施し、次年度 につなげていきたい。	△
【業務の検証と改善】 ・PKP（ぽけっと改善プロジェクト）による、定期的な就業環境改善などの活動から、業務の効率 ・明確化、現場からの提案を吸い上げ所内連携の強化を図る。	・PKからの意見も反映でき、所内連携強化につながった。 ・ICT をより効果的に活用できた。 ・働きやすい環境整備ができた。	全体的に「働きやすさ」のみならず「登録者目線」「業務の明確化を意識した提案が増加しているその提案を吸い上げ、具体化できていない反省点とし、今後の課題として取り組んでいきたい。	△
【地域社会との連携】 ◆地域資源との連携を目的とした関係機関の訪問 ・ネットワーク づくり（県西チーム支援連絡協議会・自立支援協議会・中小企業家同友会） ・ぽけっとの活動の発信（通信・HP・精神障害者地域交流事業 など）	・連携の強化、活動の拡充・発信をすることで地域への障害者の認知を高める。 ・なかぽつとして情報の発信をしながら 伝達も出来る。	自立支援協議会にて、下地区は「就労選択支援事業」上地区 は「優先調達法と共同受注」を主に地域連携を進め、いずれも 好事例として、良い結果につながった。「就労選択」ではモデルケースとして出来上がっているものもあり、次年度発信していきた い。「共同受注」については更なる発展として、今後の取り組みについて検討中。	○

〔６〕リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	―
服薬	0	―
ケガ	0	―
利用者トラブル	0	―
車両	0	―
物品破損	0	―
その他	0	―

《重大事故》　※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
０件	―	―	―	―

〔７〕苦情解決

苦情件数　　０件

高次脳機能障害　勉強会

チーム支援協議会

ぽけっと　ぼっちゃ大会